

## 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎の理念のもと、その人らしく穏やかに安心して生活して頂けるよう支援し、日々実践・見直しを行っている。毎朝朝礼時に『基本理念』『介護サービスの基本方針』『品質方針』を唱和し、申送りや会議・研修でも話し合いをおこない周知徹底に努めている。	ユニット毎の理念を目に付く所に貼り、毎朝唱和している。理念を実践するための会議や研修により周知徹底に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶等積極的におこない、散歩・買い物・外掃除・地域の行事に参加し、顔なじみの関係作りや児童会や地域ボランティア・保育園との交流会を行い関係作りに努めている。	秋祭りの子供神輿見学やラジオ体操への参加等、地域の子供達との交流の場を設けている。また、事業所の行事への参加や地域ボランティアの来園など関係づくりにも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解して頂く為、地域の方々との関わりが持てる様努め、事業所で出来る協力を自治会に申し出ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をととして、地域に溶け込めるよう取り組んでいる。行事等も報告し、ボランティアに来て頂いたり、アドバイスを頂いたりしている。	定期的に運営推進会議を開催し、知見を有する方々より積極的な意見や地域の情報等を頂いている。出された意見や提案はサービス向上へと繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から市には連絡を取り、相談アドバイスを頂き、協力関係を気付くよう取り組んでいる。尼崎市介護相談員にも週/2回来て頂いている。また尼崎グループホーム連絡会にも入会し役員会・研修会・交換研修等で連携に努めている。	市の相談員が毎月2回訪問し、支援状況の確認を行っている。頂いたアドバイスは新たなサービスへと活用している。3か月に1回行われるグループホーム連絡会では、支援のための情報や、空き情報などを共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センター内の各部署より1名づつ委員を選出し、研修や意見交換会を行い、日々ケアをおこなっている中で改善に取り組み、全体会議・ユニット会議等で報告し正しく理解し施設全体でしないケアに取り組んでいる。	外部研修や年1回開催する内部の勉強会により、職員間で注意喚起を行っている。また、面談やマニュアル作成により、身体拘束をしないケアの徹底と正しい理解に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、研修や自身・他者のケアを振り返り、職員間でも注意・話し合う機会や防止に取り組んでいる。	年に1回振り返りミーティングを実施し、出された意見はスタッフ間で共有している。また、虐待防止法の内部研修への参加を呼びかけ、対応方法を周知徹底し、虐待が見過ごされることがない取り組みを行っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者様がおられる為、日常業務の中でも職員は学ぶ事ができている。また研修も年/1回開催している。	現在、制度を活用している利用者があり、後見人と連携を取り、支援に努めている。また、職員が制度への理解を深めるため、権利擁護の研修を年に1回実施している。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、必ずご家族様に重要事項説明書を元に丁寧に時間をかけ説明を行い、質問や疑問点にも納得できるまで説明を心掛けた上で署名捺印して頂いている。ターミナルへの対応は事業所として出来る事出来ない事を明確にしながら分かりやすく説明している。	契約書は2部作成し、利用者のご家族の理解を頂けるよう、明確な説明ときめ細かな対応を心がけている。重度化への対応は出来る事出来ない事を説明し、理解していただけるよう取り組んでいる。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様・ご家族様には、質の向上に繋がるので意見・要望・苦情はその場その場で遠慮することなく、直接行って頂けるようお願いしている。またセンター側に言いにくい場合は、当法人本部や公的苦情受付機関をお知らせし、運営に反映させるよう取り組んでいる。	利用者やご家族から出された意見等をその場で解答できるよう全スタッフが対応方法を理解している。出された要望等は朝礼で申し送り、職員間で共有し改善に繋げている。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	近畿支社が施設内にあり支社長に話ができる機会が多い、また定期的に社長や本部の社員が施設を訪れ、意見や提案を聞く機会を設けている。ユニット会議・リーダー会議・全体会議を毎月実施し意見交換を行っている。また個人面談は最低年/1回行いセンター運営に反映させるようにしている。	年に1回、管理者の面談があり、職員の意見を随時すいあげ、運営に反映させるよう努めている。また、本部長が週に1回の割合で事業所を訪問し、管理者や職員と気軽に話をする機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務態度・状況を把握した上で個人面談をおこない、身分変更・給与の見直しを行っている。また研修等の参加も促し(希望研修を聞き)向上心をもってもらえるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のレベルに応じて研修を勧め、また研修を掲示して参加者を募集し、向上心を持ってもらえるよう努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	尼崎市グループホーム連絡会に入会し、交換研修・勉強会にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでの間に、入居希望者様の状況把握の為、2名体勢で訪問してご利用者様・ご家族様のそれぞれに別れてお話を伺い、他事業所や当DS・SSご利用の場合は、了解を得た上で情報提供頂いている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に困っている事・不安な事は概ね把握出来る様、話を伺っているが、その後の電話や来所時にもなるべく傾聴する機会を設け、信頼関係が結べるよう努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時に相談内容を聞かせて頂き、その上で当センターでの出来る事・出来ない事等を説明し、ご理解頂ける様努めている。その上で他のサービス利用も提案している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、料理や家事・昔ながらの智慧や風習等を教えて頂き、職員も家族の一員として日々の生活を営んで頂けるよう関係を築いている。また、職員は人生の大先輩である利用者様に悩みや相談に乗って頂き、アドバイスを受けている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所された際、介護記録に目を通して頂くと共に、日々のご様子をお伝えしている。長期来所されないご家族様には電話にてご様子をお伝えする様心掛けています。また行事等にも参加して頂ける様お声を掛けしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	従来の関係が途切れない様、友人・知人が来所された場合、居室・リビング等でゆっくりとすごして頂ける様に努めている。以前居住していた場所を車で通ったおりに、お声掛けしお話を頂いている。一部であるがデイサービスを利用している知人に毎日のように挨拶に行き馴染みの関係を続けていただいている。	利用者より特に外出の要望はないが、利用者の知合いが法人のデイサービスを利用しているケースが多く、互いに行き来し馴染みの関係が築かれている。また、利用者との何気ない会話の中から、馴染みのある場所や人間関係継続の支援が行えるよう努めている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様間で気の合う方・合わない方を職員全員で把握する様努め、席の配置や家事して頂く際のグループ分け等の配慮をしている。利用者様同志で関わり合い・支え合える関係作りにも努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の新しい入居先(特養等)からの問い合わせにも細かく対応し、その方が生活しやすい環境づくりの支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との何気ない会話の中からも暮らし方の希望・意向の把握に努め、「利用者本位」を基本に検討して介護計画にも反映するよう取組みをおこなっている。	家族が来る事による帰宅願望については、職員が工夫をし、不穏になる事がないよう対応を心がけている。また、利用者一人一人の思いや意向を職員が理解し、法人のデイサービスやショートステイに協力を依頼し、穏やかな生活を継続して頂けるよう努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご利用者様・ご家族様から情報を収集し、職員間でその情報を共有している。また思い出のあるもの・馴染みのものをお持ち頂くようお願いしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時に介護記録や連絡ノートに目を通し、口頭での送りも徹底して行い、現状の把握に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様から情報収集を行い、日々のケアの中での新たな気づき等を職員間でカンファレンスを開き、モニタリング・評価を行い見直しや修正し、介護計画書を作成している。	利用者やご家族からの要望を聞き取り、職員の意見等も参考にし、利用者一人一人の視点に立った介護計画の作成を心がけている。また、毎月の振り返りやカンファレンスが解り易くまとめられ、支援に反映することが出来ている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録・医療機関受診記録に記載し、日々の様子やケアを行う際に工夫した事等を記録し、カンファレンスの際の見直しに活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族様のニーズに可能な限り応えるよう取り組む事を心掛け、DS・SSのご利用者様とも交流を行ったり、外出レクを取り入れている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーやドラッグストアに買い物に出かけた際、ご利用者に商品を選び支払いをして頂き、地域の方々と関わりを持ってもらう支援を行っている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	センターかかりつけ医(内科・歯科)との関係を築き連携を取っている。また、入所前のもとのかかりつけ医の受診の支援を行っている。	毎週金曜日に訪問する内科医が1ユニット毎に診察を行い、利用者の健康管理を行っている。また、訪問看護との連携や近隣の病院へ情報提供を行うことにより、緊急時の対応に備えている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師訪問・看護師やセンター内他部署の看護師にも気になることは積極的に報告相談を行い、小さな変化も見逃さないよう努め、適切な対応ができるよう支援している。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に口頭での申し送り及びサマリーでの情報提供おこない、入退院時には、担当Dr.看護師とのカンファレンスに参加し、情報交換に努め、定期的に職員がお見舞いに伺い、ご利用者様・ご家族様が混乱しないよう病院関係者との関係づくりに努めている。	早期退院に向け、ご家族と情報を共有している。また、退院の目途が立てば2～3か月待機してもらうことが出来るが、それ以外の場合は家族と連携し、より良い対応策を提案している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談・契約時にターミナルについての当センターの重度化した場合の看取りや方針の説明を行い、当センターでおこなえる事・おこなえない事を伝え、かかりつけ医・看護師・職員と話し合いを行い、チームとして支援出来る様取り組んでいる。また、当法人の方針としてH24.12月より訪問看護と契約を結んでいる。	利用者、ご家族に重度化と看取りについて契約時に説明し、意向の確認を行っており、職員もチーム医療を理解している。担当医が平成24年12月に立ち上げた訪問看護ステーションを利用し、職員の安心に繋げている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員ではないが急変・事故発生時に対応出来る様、施設内研修・消防の救急救命の研修を受けている。また、定期的に対応の仕方等を看護師・経験ある職員や介護力向上委員の職員が指導する様心掛けている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練・年1回水害避難訓練を施設全体で行っている。また運営推進会議にて自治会より火災時は救助の協力の申し出もあり、避難場所の提供を頂けている(東隣の神社)非常食の備蓄も整えている。	年に2回、昼夜における避難訓練を施設全体で実施し、非常食の備蓄も整っている。避難場所の神社も地域の口添えで確保されており、職員も避難経路と物品の持ち出しについて理解している。水害時には事業所の3階が近隣の避難場所になっており、利用者の見守り等の協力を依頼している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇等の研修を行い、意識付けは行っている。問題が出た場合は、職員間で声掛けを行いお互い注意し合い、人格の尊重や誇りプライバシーを損ねない取組みを行っている。	利用者一人一人の接遇やプライバシー確保については職員が意識をもって対応している。一人になりたいと思っている方がおられず、他の方と過ごす事で、安心して生活されている方が多い。利用者への対応や言葉遣いで気付いた点は職員間で注意できる環境にあり、利用者、ご家族からも特に訴えはない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様ご自身での自己決定が出来る様な状況を作り支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター内で大まかな一日の流れがあるが、強制する事無く本人の希望する事を尊重しながら一日一日を過ごして頂ける様支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は希望するものを着用して頂き、また自身で用意する事が出来ない方に対しては、選択出来る様に声掛けしている。洗顔石鹸や基礎化粧品等をお預かりしているお小遣いで買い物に行き、選んで頂いている。月に1回～2回の訪問美容があり、好みの髪型・カラーを行っている。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前・入居後にもご利用者様・ご家族様に好みの食事を伺い把握するように努め、食事は3食全てユニット毎で調理し、調理から後片付け迄一緒に行っている。旬の食材をスーパーに買い出しに行き季節のものを取り入れる様にしている。また食べたい物を伺い、管理栄養士がたてたメニューの変更を行い提供している。	管理栄養士の立てた献立により、各ユニットで調理を行い提供している。パイキング、イベント食、仕出し等、季節毎に工夫を凝らした対応を行っており、利用者と職員が同じ食卓で家庭的な雰囲気の中、食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の献立のもと、調理し提供している為、栄養バランスはほぼ問題は無い。食事量・水分量を時間毎に個別に記録し一人ひとりの一日の状況把握に努めている。また、その方に会った食事形態摂やDr.にも相談しながらご利用者毎に食事の提供を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前に手洗い・うがいをし、食後は口腔ケア(歯磨き)を行っている。また訪問歯科のDr.とも連携を取り対応している。			

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に24時間シートを作成し、一人ひとりの水分摂取量と排泄パターンの把握に努め、声掛け誘導等をおこない、お自立に向けた支援を行っている。	利用者毎に排泄パターンを把握し、オムツ外しにチャレンジしている。トイレでの排泄を重視しているが、排便に関して困難なケースが多い。また、便秘対策として、薬剤による排泄に頼らず、水分摂取や各種運動等による支援を行っている。	業者によるオムツの研修を行い、困難事例に取り組む予定がある。より一層のオムツ外しにチャレンジされることを期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防対策として、すぐに下剤に頼るのではなく、食事内容・水分摂取量・腹部マッサージ・温療法・運度に努め、それでも困難な場合は、Dr.に相談し処方された薬を服薬して頂いている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り希望に添えるよう支援している。入浴前に検温・血圧測定等を行っている。また入浴剤や機械浴を使用し、気持ち良く安全に入浴して頂ける様支援している。	入浴前の検温、血圧測定を実施し、利用者の状態を確認し、安全な入浴を心がけている。2～3日に1回の入浴を実施し、必要に応じ足浴や清拭での対応も行っている。夜間浴等の希望は特にない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない=薬ではなく、ひとり一人の生活習慣等を把握した上で、休息や日中の活動時間を増やすなどして、夜安眠して頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報については、薬情などで把握し、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のレベルに合わせ、何かしらの役割を持って頂き張り合いや喜びを持ってもらえる様支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとり一人の希望を把握し、スーパーは一への買い物・公園への散歩等個別レクとして外出出来る様支援している。またご家族様にも本人の思いをお伝えし、ご家族様にもご協力を頂くこともある。行事毎にも参加し、地域の方々とも交流を深め支援に取り組んでいる。	買い物への同行や近隣の散歩等で気分転換をしていただいている。また、利用者毎の希望に沿った外出支援を実施しているが、状況により対応することが困難なケースが多い。	年1回の日帰りバス旅行を検討しているとの事。早期に実現されることを期待したい。

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお小遣いをお預かりし、一人ひとりの力に応じ、時にはレジにて清算して頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様とも打合せをし、電話をかけたいと希望された場合は、深夜早朝を除き電話をかけて頂いている。またご家族様からの電話は取次、お話をしてもらっている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の内装は木目調で温かみもあり、共有スペースは広く南向きで全面窓の為、日光が射し明るく居心地の良い空間である。気候の良い時は冷暖房に頼らず、窓を開け外気を取り込み、季節を感じて頂ける様にしている。	広いベランダにテーブルを置き、昼食会を開いたり、日向ぼっこをしたりと居心地のよい空間の中で、穏やかな生活を送って頂いている。プランターへの水やりや洗濯物を干すなど、充実した日常生活が提供出来ている。	今後は、バーベキュー等の実施を検討し、より豊かな生活支援を心がけているとの事、早期実現を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、複数のテーブル・椅子・ソファ等を設置し、自由に移動して御利用頂ける様にしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様・ご家族様とも話し合い、ご自宅で使用していた家具や寝具・小物・写真等出来る限り持参して頂き、見慣れた物に囲まれ、安心して居心地良く過ごして頂ける様ご協力頂いている。	使い慣れた家具や仏壇、日用品等を持ってきていただき、落ち着いた空間になるよう配慮している。また、利用者の思いを確認しながら、より過ごしやすい環境となるよう支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が既存のマークでわかりにくければ、その方が解る様表示したり、視界に入る様高さの調整を行ったり、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		



自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価
		実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容